

【審査論文】

感謝を感じる対象の発達的变化

池田幸恭

Developmental changes regarding objects of gratitude

Yukitaka IKEDA

要旨

本研究の目的は、感謝を感じる対象の発達的变化について明らかにすることである。10代（15歳以上）、20代、30代、40代、50代、60代それぞれ300名（男性150名、女性150名）の合計1800名にweb調査を実施し、感謝を感じる対象20項目への回答を主に求めた。各対象へ感謝を感じる程度を確認した上で、感謝を感じる対象の年代による評定得点の差を検討した。その結果、感謝を感じる対象の発達的变化は、対人関係における感謝（変化なし）、対人関係における感謝（変化あり）、抽象的な対象への感謝という大きく3つの特徴にまとめられた。第1の対人関係における感謝（変化なし）は、父親、母親、職場（あるいはアルバイト先）の人が含まれ、年代による得点差はみられず、15歳以上から60代にかけて感謝の気持ちを安定して感じていた。第2の対人関係における感謝（変化あり）は、友だち、恋人（あるいは配偶者）、祖父母、学校の先生、自分の子ども、年下のきょうだい、年上のきょうだいが含まれ、感謝の気持ちを最も感じている時期ならびに感じる程度が最小の時期が対象によって異なっていた。第3の抽象的な対象への感謝は、自然の恵み、自分の健康状態、いのちのつながりといった10種類の対象が含まれ、概ね10代から20代よりも50代、さらに60代に感謝を感じる程度が大きくなっていた。以上より、感謝は生涯発達をとおして、具体的な対人関係においてだけでなく、抽象的な対象へも広がって感じられるようになると考えられた。

キーワード：感謝（gratitude）、生涯発達（lifespan development）、web調査（web survey）

問題と目的**感謝を感じる対象への着目**

感謝は最も重要な徳の一つであると論じられ、様々な宗教において感謝は高く評価される人間的特性であり、よい人生を生きるために必要不可欠なものであるとされている（Emmons, 2004）。それでは、人は何に対して感謝を感じているのであろうか。池田（2006；2014）は青年期ならびに成人期における親に対する感謝の心理状態について検討しているが、感謝は人格を持たないもの（たとえば、自然）や人間でない源泉（たとえば、神、動物、宇宙）に対しても経験される（Froh & Bono, 2008）。

感謝を感じる対象は、青年期やそれ以降には、個人を超えてより包括的で抽象的な対象を含み、人々は集団や組織、システムや理念にさえも感謝を感じると考えられている（McAdams & Bauer, 2004）。すなわち、感謝を感じる対象は、生涯発達の中で変化していくと理解することができる。

佐竹（2004）は大学生とその親に質問紙調査を実施し、感謝の相手は学生では「友達」「先生」などが含まれることに対して、親ではほとんどが「家族」であることを報告している。Chipperfield, Perry, Weiner & Newall（2009）は、70代から90代の高齢者の感謝の原因は、自分の健康状態が最も高く、自分の能力、家族とのやりとり、人生の状態の順に高いことを示している。この結果を受けて、有光（2010）は、“老年期になると、感謝の対象がより精神的なものに移行する”と述べている（p.131）。このように、感謝を感じる対象に関する研究は発達各時期に散見されるが、その生涯にわたる発達的变化を検討した研究はみられないといえる。

生涯発達からみた感謝を感じる対象の変化

先述したMcAdams & Bauer（2004）は、Eriksonによるライフサイクル論を参考に、乳児期の基本的信頼が感謝の萌芽となること、青年期以降のアイデンティティの変化に感謝が重要な役割を果たしていること、さらに中年期の世代性は感謝によってもたらされる面があり、人生の最期にはもはや何もお返しすることができない状態で人生という贈り物への感謝が実感されてくることを論じている。

大野（2014）は、Eriksonのライフサイクル論について、“青年期において「自分とは何者か」「何者として生きていくのか」「自分の生きる意味は何か」など、自らのアイデンティティの問題に集中していた関心、心的エネルギーが人生のパートナーや共通の子孫、次世代への育成へと移行していくことを指摘している”と述べる（p.224）。Erikson（1959 西平・中島訳 2011）は、ライフサイクルを8つの時期に分け、各時期に主題として現れやすい心理社会的危機を示した。Eriksonによるライフサイクル論は8×8で示された「エピジェネティック・チャート」がよく知られているが、鈴木・西平（2014）は「ワークシート」あるいは「付表」としてEriksonが言及した「一覧表」にも着目している。そこでは、ライフサイクルの8つの時期で、「重要な意味を持つ他者」が“母親的に世話してくれる人物”（Ⅰ乳児期）、“両親の存在”（Ⅱ幼児初期）、“家族”（Ⅲ遊戯期）、“近隣・学校”（Ⅳ学齢期）、“ピアグループ、外のグループ：リーダーシップのモデル”（Ⅴ青年期）、“パートナー（友情・性愛・競争・協力）”（Ⅵ若い成人期）、“仕事や家事の分業”（Ⅶ成人期）、“人類”“私の種族”（Ⅷ老年期）と対応していることが示されている（p.105）。ライフサイクルをとおして「重要な意味を持つ他者」が変化していくことに伴い、感謝を感じる対象も変化していく可能性があると考えられる。

また、中間（2013）は、“自己の構成要素にもなりうる、自己をとりまく他者や環境に対する肯定的感情”を“恩恵享受的自己感（blessed self-feeling）”として概念化している（p.375）。恩恵享受的自己感においては自己をとりまく他者や環境が対象化され、それらの肯定には、その中心に存在する自己の肯定も含意されている。関連して、村瀬（1996）は、心理療法の一種である内観について、“各自の自己同一性の確立を、両親を中心とする他者の恩恵の認知をとおして促進する働きをもつものである”と論じている（pp.158-159）。このような“自分という存在が他者の恩恵によって支えられてきたのだ”という認識（村瀬，1996，p.159）は、人間の生涯発達において重要になるであろう。すなわち、感謝を感じる対象の発達的变化は、自分という存在を支えている存在への気づきの現れでもあると考えられることができる。

本研究の目的

本研究の目的は、感謝を感じる対象の発達的变化について明らかにすることである。そのため、15歳から60代までの年齢範囲でweb調査を実施する。“Web上での調査は様々な年齢・性別の回答者を確保する上で非常に有効”である（北折・太田，2009，p.2）ことから、web調査が有効であると考えた。そして、

各対象へ感謝を感じる程度を確認した上で、感謝を感じる対象の年代による評定得点の差を検討する。

心理学領域において、感謝は様々な定義のもとで研究が進められている。たとえば、“他者の善意によって自己が利益を得ていることを認知することによって生じるポジティブ感情”(Tsang, 2006; 本多, 2010, p.39)、“人から何か自分のためになるものを受け取ったときに経験される肯定的な感情”(Froh & Bono, 2008; 有光, 2010, p.130)、“自分以外のものから利益を得たことを意識するような状況で生じ、喜び、嬉しさといった肯定的な内容に加えて、申し訳なさ、すまなさといった非肯定的な内容としても体験される感情”(蔵永・樋口, 2011; 2013, p.376)、“日常生活において、個人が価値のあるものを受け取ったときや、現在の生活を充実させている環境、すでに在るものや所有しているものを意識することによって、提供してくれた対象や存在していることに対して抱く複合的な感情およびそれに伴う表出行動”(岩崎・五十嵐, 2014, p.108)などの定義がある。Tsang (2006; 本多, 2010) やFroh & Bono (2008; 有光, 2010) のように対人関係における感謝を前提とした定義がある一方で、蔵永・樋口 (2011; 2013) や岩崎・五十嵐 (2014) のように対人関係だけでなく感謝の生起状況をより広く含んだ定義もみられる。

本研究では、感謝を感じる対象を人でないものも含めて包括的に理解するために、感謝を「恩恵を与られていると感じること」と幅広くとらえる。調査にあたっては、感謝という言葉が日常的に用いられることから、回答者が理解しやすいと考えられる「感謝の気持ち」という表現を用いることにする。

方 法

調査協力者 関東圏に在住する10代(15歳以上)、20代、30代、40代、50代、60代それぞれ300名(男性150名、女性150名)の合計1800名に調査を実施した。

調査時期と手続き インターネット調査会社(クロス・マーケティング)を通じて、2012年9月上旬にweb調査を実施した。各年代の性別ごとに、それぞれ目標人数である150名となるまで調査を継続した。

調査内容 性別、年齢、職業といった回答者属性に加えて、次の内容を調査した¹。

感謝を感じる対象20項目 先行研究(Chipperfield et al., 2009; McAdams & Bauer, 2004; 佐竹, 2004)を参考に20項目を作成し、発達心理学を専攻する大学教員3名と大学院生2名による検討を踏まえて修正を加え、最終的に20項目を設定した²。具体的には、父親、母親、年上のきょうだい、年下のきょうだい、祖父母、友だち、恋人(あるいは配偶者)、学校の先生、職場(あるいはアルバイト先)の人、自分の子ども、祖先、自分が置かれている環境、自分の健康状態、自分が過去に苦勞したこと、日常生活のささいなこと、自然の恵み、自分が生まれてきたこと、いのちのつながり、神あるいは仏、運命という20種類の対象への感謝の気持ちである。“普段あなたは、次のような気持ちをどの程度感じていますか。”という教示のもと、「まったく感じていない」(1点)、「あまり感じていない」(2点)、「どちらともいえない」(3点)、「やや感じている」(4点)、「非常に感じている」(5点)の5件法で回答を求め、()内の得点を付与した。父親から自分の子どもまでの具体的な人物に関する10項目には、「いない・思い浮かばない」という選択肢も設けた。

社会的望ましさ3項目 S-ESDS(三好・大野・内島・若原・大野, 2003)の下位尺度「社会的望ましさ」から3項目(「わたしは、誰に対しても同じように丁寧に接している」「わたしは、誰に対しても親切な配慮をする」「わたしは、誰に対しても完璧に誠実である」)を抜粋した。“次の文章の内容は、現在のあなたにどの程度あてはまりますか。”という教示のもと、「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」、「どちらともいえない」、「ややあてはまる」、「非常にあてはまる」の5件法で回答を求めた。

結婚と子どもの有無 結婚の有無については、“あなたは結婚していらっしゃいますか。”という教示の

もと、「未婚」「既婚（離別・死別含む）」のいずれかを選択してもらった。子どもの有無については、“あなたはお子様がいらっしゃいますか。”という教示のもと、「はい」「いいえ」のいずれかを選択してもらった。

結 果

回答者の選定と特徴

感謝には社会的望ましさの影響がみられると考えられたため、三好他（2003）を参考に、社会的望ましさ3項目すべてに「非常にあてはまる」とした回答者17名を以降の分析から除外した。合わせて、子どもがいないと回答したにもかかわらず、「自分の子どもへの感謝の気持ち」に「いない・思い浮かばない」を選択していない場合は回答に矛盾がみられると判断し、該当する154名を以降の分析から除外した。合計171名を除外し、最終的に1629名の回答を分析することにした。

回答者の職業について、各年代の性別ごとに20%以上の回答があったものを以下に述べる。10代（15歳以上）では、高校生が男性48.7%、女性44.1%、大学生が男性44.3%、女性39.7%と多くみられた。男性は、会社勤務（一般社員）が20代で45.3%、30代で55.9%、40代で40.3%、50代で25.4%と多く、会社勤務（管理職）が40代で22.3%、50代で26.1%と推移し、60代には無職が43.3%で最も多かった。女性は、20代は会社勤務（一般社員）が26.7%と多いが、専業主婦が20代で23.0%、30代で44.5%、40代で46.3%、50代で41.7%、60代で60.7%と共通して多くみられ、50代にはパート・アルバイトが28.5%と多くなっていた。

「父親」から「自分の子ども」までの具体的な人物への感謝の気持ち10項目に、「いない・思い浮かばない」とした回答者、および既婚者、子どもがいる回答者の人数をTable 1に示した。10代では、男女共に、恋人（あるいは配偶者）、職場（あるいはアルバイト先）の人は「いない・思い浮かばない」とした回答が他の年代に比べて多く、子どもがいる回答者はいなかった。60代では、父親、母親、祖父母は「いない・思い浮かばない」とした回答が他の年代に比べて多くなっていた。

Table 1 感謝を感じる対象に「いない・思い浮かばない」とした回答者、および既婚者、子どもがいる回答者の人数

	10代(15歳以上)	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性 父親	7 (6.1)	5 (4.3)	8 (6.3)	20 (14.4)	21 (14.8)	39 (27.7)	100 (12.8)
母親	5 (4.3)	2 (1.7)	4 (3.1)	4 (2.9)	14 (9.9)	27 (19.1)	56 (7.2)
年上のきょうだい	72 (62.6)	57 (48.7)	67 (52.8)	75 (54.0)	66 (46.5)	42 (29.8)	379 (48.5)
年下のきょうだい	53 (46.1)	50 (42.7)	48 (37.8)	49 (35.3)	45 (31.7)	50 (35.5)	295 (37.8)
祖父母	9 (7.8)	8 (6.8)	22 (17.3)	45 (32.4)	40 (28.2)	47 (33.3)	171 (21.9)
友だち	2 (1.7)	5 (4.3)	4 (3.1)	7 (5.0)	3 (2.1)	2 (1.4)	23 (2.9)
恋人（あるいは配偶者）	91 (79.1)	69 (59.0)	38 (29.9)	38 (27.3)	8 (5.6)	10 (7.1)	254 (32.5)
学校の先生	2 (1.7)	11 (9.4)	12 (9.4)	14 (10.1)	9 (6.3)	20 (14.2)	68 (8.7)
職場（あるいはアルバイト先）の人	67 (58.3)	12 (10.3)	10 (7.9)	7 (5.0)	6 (4.2)	17 (12.1)	119 (15.2)
自分の子ども	115 (100.0)	107 (91.5)	78 (61.4)	70 (50.4)	28 (19.7)	29 (20.6)	427 (54.7)
既婚(離別・死別含む)	0 (0.0)	16 (13.7)	74 (58.3)	92 (66.2)	132 (93.0)	127 (90.1)	441 (56.5)
子どもがいる	0 (0.0)	10 (8.5)	49 (38.6)	69 (49.6)	114 (80.3)	112 (79.4)	354 (45.3)
全体人数	115 (100.0)	117 (100.0)	127 (100.0)	139 (100.0)	142 (100.0)	141 (100.0)	781 (100.0)
女性 父親	10 (7.4)	8 (5.9)	6 (4.2)	20 (13.4)	25 (17.4)	39 (27.9)	108 (12.7)
母親	3 (2.2)	2 (1.5)	5 (3.5)	5 (3.4)	13 (9.0)	28 (20.0)	56 (6.6)
年上のきょうだい	72 (52.9)	70 (51.9)	69 (47.9)	66 (44.3)	70 (48.6)	44 (31.4)	391 (46.1)
年下のきょうだい	77 (56.6)	61 (45.2)	60 (41.7)	63 (42.3)	40 (27.8)	39 (27.9)	340 (40.1)
祖父母	9 (6.6)	15 (11.1)	21 (14.6)	45 (30.2)	49 (34.0)	62 (44.3)	201 (23.7)
友だち	6 (4.4)	5 (3.7)	1 (0.7)	2 (1.3)	0 (0.0)	3 (2.1)	17 (2.0)
恋人（あるいは配偶者）	110 (80.9)	50 (37.0)	14 (9.7)	23 (15.4)	13 (9.0)	21 (15.0)	231 (27.2)
学校の先生	10 (7.4)	21 (15.6)	19 (13.2)	23 (15.4)	24 (16.7)	24 (17.1)	121 (14.3)
職場（あるいはアルバイト先）の人	69 (50.7)	27 (20.0)	28 (19.4)	36 (24.2)	28 (19.4)	40 (28.6)	228 (26.9)
自分の子ども	136 (100.0)	109 (80.7)	64 (44.4)	61 (40.9)	30 (20.8)	14 (10.0)	414 (48.8)
既婚(離別・死別含む)	0 (0.0)	53 (39.3)	101 (70.1)	121 (81.2)	131 (91.0)	132 (94.3)	538 (63.4)
子どもがいる	0 (0.0)	26 (19.3)	80 (55.6)	88 (59.1)	114 (79.2)	126 (90.0)	434 (51.2)
全体人数	136 (100.0)	135 (100.0)	144 (100.0)	149 (100.0)	144 (100.0)	140 (100.0)	848 (100.0)

注：数値は人数、()内は各年代の性別ごとの全体人数に対する割合である。「感謝を感じる対象」は、すべて「〇〇への感謝の気持ち」という項目であった。「祖先」から「運命」までの対象には、「いない・思い浮かばない」という回答選択肢は設けなかった。

感謝を感じる程度の検討

20種類の各対象へ感謝を感じる程度の平均値と、得点可能範囲の中間値である3.00との間での t 検定を行った。それぞれの t 値 (df) をTable 2 に示した（各平均値は後述のTable 3 参照）。

Table 2 年代と性別ごとの感謝を感じる対象の平均値と
得点可能範囲の中間値（3.00）を比較した t 検定結果

感謝を感じる対象	男性						女性					
	10代(15歳以上)	20代	30代	40代	50代	60代	10代(15歳以上)	20代	30代	40代	50代	60代
父親	13.32 *** (107)	11.69 *** (111)	13.25 *** (118)	11.53 *** (118)	12.67 *** (120)	12.50 *** (101)	10.12 *** (125)	12.87 *** (126)	13.74 *** (137)	12.81 *** (128)	12.87 *** (118)	14.94 *** (100)
母親	17.27 *** (109)	17.80 *** (114)	21.39 *** (122)	15.86 *** (134)	19.78 *** (127)	17.20 *** (113)	26.44 *** (132)	19.36 *** (132)	21.73 *** (138)	23.49 *** (143)	15.18 *** (130)	21.47 *** (111)
年上のきょうだい	5.31 *** (42)	3.80 *** (59)	4.29 *** (59)	5.02 *** (63)	5.04 *** (75)	11.16 *** (98)	6.36 *** (63)	6.19 *** (64)	6.05 *** (74)	6.84 *** (82)	4.25 *** (73)	9.00 *** (95)
年下のきょうだい	1.28 (61)	2.86 ** (66)	5.06 *** (78)	5.69 *** (89)	5.57 *** (96)	5.11 *** (90)	2.23 ** (58)	7.61 *** (73)	7.99 *** (83)	5.59 *** (85)	6.14 *** (103)	6.32 *** (100)
祖父母	16.22 *** (105)	7.57 *** (108)	10.67 *** (104)	9.85 *** (93)	8.23 *** (101)	11.85 *** (93)	13.22 *** (126)	10.92 *** (119)	15.49 *** (122)	12.50 *** (103)	7.84 *** (94)	8.18 *** (77)
友だち	16.55 *** (112)	13.60 *** (111)	11.90 *** (122)	12.25 *** (131)	12.50 *** (138)	15.11 *** (138)	18.23 *** (129)	22.75 *** (129)	20.92 *** (142)	19.81 *** (146)	17.23 *** (143)	15.39 *** (136)
恋人 (あるいは配偶者)	8.00 *** (23)	8.29 *** (47)	19.56 *** (88)	17.25 *** (100)	17.30 *** (133)	23.44 *** (130)	3.53 ** (25)	16.26 *** (84)	16.53 *** (129)	16.25 *** (125)	17.68 *** (130)	13.27 *** (118)
学校の先生	7.11 *** (112)	3.11 ** (105)	1.98 * (114)	0.31 (124)	4.37 *** (132)	8.50 *** (120)	4.52 *** (125)	4.06 *** (113)	3.16 ** (124)	0.96 (125)	1.51 (119)	4.94 *** (115)
職場(あるいは アルバイト先)の人	4.71 *** (47)	7.07 *** (104)	9.57 *** (116)	7.14 *** (131)	8.61 *** (135)	10.81 *** (123)	7.40 *** (66)	8.58 *** (107)	8.32 *** (115)	10.46 *** (112)	8.00 *** (115)	6.38 *** (99)
自分の子ども	—	3.88 ** (9)	8.90 *** (48)	12.68 *** (68)	12.35 *** (113)	10.06 *** (111)	—	10.61 *** (25)	15.15 *** (79)	17.06 *** (87)	15.90 *** (113)	17.32 *** (125)
祖先	1.18 (114)	-0.17 (116)	4.61 *** (126)	3.87 *** (138)	6.32 *** (141)	6.11 *** (140)	0.21 (135)	2.52 * (134)	5.41 *** (143)	5.81 *** (148)	6.76 *** (143)	7.74 *** (139)
自分が置かれている 環境	4.33 *** (114)	1.85 (116)	5.80 *** (126)	3.05 ** (138)	6.22 *** (141)	8.87 *** (140)	8.81 *** (135)	5.89 *** (134)	7.87 *** (143)	11.28 *** (148)	10.07 *** (143)	12.51 *** (139)
自分の健康状態	3.47 ** (114)	1.97 (116)	7.06 *** (126)	6.47 *** (138)	10.04 *** (141)	11.11 *** (140)	4.87 ** (135)	6.70 *** (134)	9.74 *** (143)	10.38 *** (148)	12.26 *** (143)	17.08 *** (139)
自分が過去に 苦労したこと	2.66 ** (114)	1.61 (116)	3.30 ** (126)	1.81 (138)	4.53 *** (141)	7.09 *** (140)	1.64 (135)	2.40 * (134)	5.65 *** (143)	4.27 *** (148)	4.21 *** (143)	6.12 *** (139)
日常生活の ささいなこと	4.42 *** (114)	3.90 *** (116)	6.92 *** (126)	5.71 *** (138)	8.12 *** (141)	8.58 *** (140)	7.12 *** (135)	9.51 *** (134)	12.46 *** (143)	14.26 *** (148)	12.94 *** (143)	15.81 *** (139)
自然の恵み	5.86 *** (114)	5.57 *** (116)	8.77 *** (126)	7.74 *** (138)	10.96 *** (141)	12.50 *** (140)	6.92 *** (135)	7.77 *** (134)	14.17 *** (143)	13.83 *** (148)	13.75 *** (143)	18.79 *** (139)
自分が 生まれてきたこと	5.23 *** (114)	2.19 * (116)	7.22 *** (126)	5.40 *** (138)	9.20 *** (141)	8.98 *** (140)	4.14 *** (135)	5.47 *** (134)	9.42 *** (143)	9.61 *** (148)	8.66 *** (143)	11.93 *** (139)
いのちのつながり	4.01 *** (114)	2.23 * (116)	6.44 *** (126)	5.41 *** (138)	7.89 *** (141)	8.72 *** (140)	4.23 *** (135)	5.65 *** (134)	9.34 *** (143)	8.96 *** (148)	10.85 *** (143)	14.78 *** (139)
神あるいは仏	-2.07 * (114)	-2.23 * (116)	-1.25 (126)	0.72 (138)	2.51 * (141)	3.42 ** (140)	-2.91 ** (135)	-2.47 * (134)	3.71 *** (143)	3.45 ** (148)	5.54 *** (143)	6.21 *** (139)
運命	-0.47 (114)	-0.83 (116)	1.92 (126)	0.45 (138)	2.51 * (141)	4.97 *** (140)	0.92 (135)	1.92 (134)	6.00 *** (143)	4.08 *** (148)	6.68 *** (143)	6.17 *** (139)

注：数値は、 t 値 (df) である。得点範囲は1.00から5.00であった。* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$ を示している。

10代（15歳以上）で、子どもがいる回答者はいなかった。「感謝を感じる対象」は、すべて「〇〇への感謝の気持ち」という項目であった。

分析の結果、神あるいは仏への感謝得点は、男女共に15歳以上から20代で、得点可能範囲の中間値である3.00よりも有意に小さかった。運命への感謝得点は、男性は15歳以上から40代まで、女性は15歳以上から20代まで有意差がみられなかった。それに加えて、男性では、10代で年下のきょうだいと祖先、20代で祖先、自分が置かれている環境、自分の健康状態、自分が過去に苦労したこと、30代で神あるいは仏、40代で学校の先生、自分が過去に苦労したこと、神あるいは仏への感謝得点に有意差がみられなかった。女性では、10代で祖先、自分が過去に苦労したこと、40代と50代で学校の先生への感謝得点に有意差がみられなかった。これら以外の感謝得点は、得点可能範囲の中間値である3.00よりも有意に大きかった。

感謝を感じる対象の年代による評定得点の差

感謝を感じる対象20項目それぞれの評定得点について、年代と性別を要因とした分散分析を行った。年代の主効果がみられた場合、あるいは交互作用の検討後に単純主効果がみられた場合には多重比較（Bonferroni法）を行った（Table 3）。

Table 3 感謝を感じる対象について年代と性別を要因とした分散分析および下位検定の結果

感謝を感じる対象	10代(15歳以上)	20代	30代	40代	50代	60代	年代の主効果		性別の主効果		交互作用	
							F値 (df)	n ²	F値 (df)	n ²	F値 (df)	n ²
父親	男性	4.19 (0.93)	4.18 (1.07)	4.29 (1.06)	4.16 (1.10)	4.13 (0.98)	4.28 (1.04)	0.1	0.00	.00	0.40	.00
	n	108	112	119	119	121	102	(5, 1409)	(1, 1409)	.00	(5, 1409)	.00
母親	女性	4.03 (1.15)	4.22 (1.07)	4.27 (1.08)	4.19 (1.05)	4.16 (0.98)	4.38 (0.93)					
	n	126	127	138	129	119	101					
年上のきょうだい	男性	4.37 (0.83)	4.43 (0.86)	4.53 (0.79)	4.35 (0.99)	4.41 (0.81)	4.44 (0.89)	1.74	0.1	0.00	1.09	.00
	n	110	115	123	135	128	114	(5, 1505)	(1, 1505)	.00	(5, 1505)	.00
年上のきょうだい	女性	4.53 (0.67)	4.53 (0.91)	4.58 (0.86)	4.50 (0.77)	4.27 (0.96)	4.49 (0.74)					
	n	133	133	139	144	131	112					
年下のきょうだい	男性	3.81 (1.01)	3.65 (1.33)	3.67 (1.20)	3.69 (1.10)	3.62 (1.07)	4.06 (0.95)	2.63*	0.02	0.00	0.61	.00
	n	43	60	60	64	76	99	(5, 847)	(1, 847)	.00	(5, 847)	.00
年下のきょうだい	女性	3.81 (1.02)	3.91 (1.18)	3.89 (1.28)	3.81 (1.08)	3.57 (1.15)	3.98 (1.07)	50代<60代				
	n	64	65	75	83	74	96					
祖母	男性	3.21 (1.30)	3.42 (1.20)	3.61 (1.07)	3.59 (0.98)	3.60 (1.06)	3.63 (1.17)	3.08*	0.02	0.00	1.52	.01
	n	62	67	79	90	97	91	(5, 982)	(1, 982)	.01	(5, 982)	.01
祖母	女性	3.34 (1.17)	4.05 (1.19)	3.88 (1.01)	3.71 (1.18)	3.64 (1.07)	3.68 (1.09)	10代<60代=30代=20代				
	n	59	74	84	86	104	101	男性<女性				
友人	男性	4.31 (0.83)	3.86 (1.19)	4.10 (1.05)	4.02 (1.01)	3.85 (1.05)	4.12 (0.91)	3.97**	0.02	0.00	2.39*	.01
	n	106	109	105	94	102	94	(5, 1245)	(1, 1245)	.00	(5, 1245)	.01
友人	女性	4.01 (0.86)	4.03 (1.04)	4.30 (0.93)	4.11 (0.90)	3.82 (1.02)	3.91 (0.98)	男性: 50代=20代<10代; 女性: 50代<30代				
	n	127	120	123	104	95	78	10代: 女性<男性 (50代<10代=30代)				
恋人	男性	4.27 (0.81)	4.03 (0.80)	3.98 (0.91)	3.90 (0.85)	3.92 (0.87)	4.00 (0.78)	4.63***	0.02	0.00	1.69	.01
	n	113	112	123	132	139	139	(5, 1577)	(1, 1577)	.01	(5, 1577)	.01
恋人	女性	4.35 (0.84)	4.32 (0.66)	4.29 (0.74)	4.25 (0.77)	4.13 (0.78)	4.04 (0.79)	60代=50代=40代<10代				
	n	130	130	143	147	144	137	男性<女性				
恋人(あるいは配偶者)	男性	4.33 (0.82)	4.21 (1.01)	4.56 (0.75)	4.40 (0.81)	4.41 (0.94)	4.47 (0.72)	1.72	0.1	0.00	2.46*	.01
	n	24	48	89	101	134	131	(5, 1132)	(1, 1132)	.00	(5, 1132)	.01
恋人(あるいは配偶者)	女性	3.85 (1.22)	4.53 (0.87)	4.39 (0.96)	4.35 (0.93)	4.34 (0.87)	4.18 (0.97)	女性: 10代<20代				
	n	26	85	130	126	131	119	20代: 男性<女性; 60代: 女性<男性				
学校の先生	男性	3.71 (1.06)	3.35 (1.16)	3.23 (1.27)	3.03 (1.17)	3.37 (0.97)	3.70 (0.91)	8.33***	0.03	0.00	1.474	.01
	n	113	106	115	125	133	121	(5, 1428)	(1, 1428)	.00	(5, 1428)	.01
学校の先生	女性	3.46 (1.14)	3.46 (1.20)	3.32 (1.13)	3.10 (1.11)	3.15 (1.09)	3.47 (1.03)	40代<20代=10代=60代; 50代=30代<10代=60代				
	n	126	114	125	126	120	116					
職場(あるいはアルバイト先)の人	男性	3.77 (1.13)	3.75 (1.09)	3.92 (1.04)	3.65 (1.05)	3.66 (0.90)	3.85 (0.88)	0.313	0.1	0.00	0.209	.01
	n	48	105	117	132	136	124	(5, 1270)	(1, 1270)	.00	(5, 1270)	.01
職場(あるいはアルバイト先)の人	女性	3.85 (0.94)	3.81 (0.99)	3.82 (1.06)	3.87 (0.88)	3.66 (0.89)	3.62 (0.97)					
	n	67	108	116	113	116	100					
自分の子ども	男性	—	4.30 (1.06)	4.27 (1.00)	4.16 (0.76)	4.03 (0.89)	3.90 (0.95)	4.49**	0.02	0.00	0.36	.00
	n	0	10	49	69	114	112	(5, 778)	(1, 778)	.01	(5, 778)	.00
自分の子ども	女性	—	4.58 (0.76)	4.39 (0.82)	4.35 (0.74)	4.12 (0.75)	4.17 (0.76)	60代=50代<30代=20代				
	n	0	26	80	88	114	126	男性<女性				

祖先	男性	3.13 (1.18)	2.98 (1.08)	3.48 (1.17)	3.39 (1.18)	3.55 (1.04)	3.57 (1.12)	11.05***	.03	1.89	.00	0.85	.00
	n	115	117	127	139	142	141	(5, 1617)		(1, 1617)		(5, 1617)	
	女性	3.02 (1.23)	3.27 (1.23)	3.50 (1.11)	3.52 (1.10)	3.59 (1.05)	3.66 (1.02)	10代=20代<40代=30代=50代=60代					
	n	136	135	144	149	144	140						
自分が置かれている環境	男性	3.46 (1.14)	3.21 (1.20)	3.57 (1.12)	3.31 (1.20)	3.50 (0.96)	3.72 (0.96)	3.88**	.01	38.34***	.02	1.10	.00
	n	115	117	127	139	142	141	(5, 1617)		(1, 1617)		(5, 1617)	
	女性	3.76 (1.01)	3.66 (1.30)	3.74 (1.12)	3.82 (0.89)	3.83 (0.99)	3.93 (0.88)	20代<60代					
	n	136	135	144	149	144	140	男性<女性					
自分の健康状態	男性	3.35 (1.08)	3.21 (1.17)	3.66 (1.06)	3.58 (1.06)	3.79 (0.94)	3.91 (0.97)	13.31***	.04	25.06***	.02	0.91	.00
	n	115	117	127	139	142	141	(5, 1617)		(1, 1617)		(5, 1617)	
	女性	3.49 (1.18)	3.71 (1.23)	3.91 (1.12)	3.85 (1.00)	3.96 (0.94)	4.14 (0.79)	10代=20代<30代=50代=60代、10代<40代<60代					
	n	136	135	144	149	144	140	男性<女性					
自分が過去に苦勞したこと	男性	3.28 (1.12)	3.18 (1.21)	3.34 (1.16)	3.17 (1.12)	3.35 (0.91)	3.62 (1.05)	3.72**	.01	0.48	.00	1.19	.00
	n	115	117	127	139	142	141	(5, 1617)		(1, 1617)		(5, 1617)	
	女性	3.16 (1.15)	3.27 (1.33)	3.51 (1.08)	3.38 (1.08)	3.37 (1.05)	3.48 (0.93)	10代=20代=40代<60代					
	n	136	135	144	149	144	140						
日常生活のささいなこと	男性	3.43 (1.04)	3.36 (1.00)	3.61 (1.00)	3.46 (0.95)	3.54 (0.80)	3.63 (0.87)	3.11**	.01	57.22***	.03	0.86	.00
	n	115	117	127	139	142	141	(5, 1617)		(1, 1617)		(5, 1617)	
	女性	3.62 (1.01)	3.85 (1.04)	3.91 (0.88)	3.87 (0.74)	3.91 (0.84)	3.92 (0.69)	10代<30代=60代					
	n	136	135	144	149	144	140	男性<女性					
自然の恵み	男性	3.55 (1.00)	3.54 (1.05)	3.80 (1.03)	3.68 (1.03)	3.82 (0.89)	3.96 (0.91)	9.60***	.03	17.84***	.01	0.34	.00
	n	115	117	127	139	142	141	(5, 1617)		(1, 1617)		(5, 1617)	
	女性	3.62 (1.04)	3.76 (1.13)	4.02 (0.87)	3.95 (0.84)	4.01 (0.89)	4.18 (0.74)	10代=20代<50代=30代=60代、40代<60代					
	n	136	135	144	149	144	140	男性<女性					
自分が生まれてきたこと	男性	3.52 (1.07)	3.25 (1.22)	3.70 (1.09)	3.53 (1.16)	3.74 (0.96)	3.79 (1.04)	6.47***	.02	6.20*	.00	1.47	.01
	n	115	117	127	139	142	141	(5, 1617)		(1, 1617)		(5, 1617)	
	女性	3.43 (1.20)	3.62 (1.32)	3.85 (1.08)	3.76 (0.96)	3.74 (1.03)	3.94 (0.94)	20代<50代、20代=10代<30代=60代					
	n	136	135	144	149	144	140	男性<女性					
いのちのつながり	男性	3.43 (1.16)	3.25 (1.20)	3.65 (1.13)	3.49 (1.07)	3.68 (1.02)	3.78 (1.06)	8.90***	.03	16.90***	.01	0.82	.00
	n	115	117	127	139	142	141	(5, 1617)		(1, 1617)		(5, 1617)	
	女性	3.44 (1.22)	3.61 (1.26)	3.83 (1.07)	3.74 (1.01)	3.89 (0.98)	4.09 (0.87)	10代=20代<30代=50代=60代、40代<60代					
	n	136	135	144	149	144	140	男性<女性					
神あるい仏	男性	2.76 (1.26)	2.75 (1.20)	2.87 (1.20)	3.08 (1.30)	3.23 (1.10)	3.35 (1.21)	17.99***	.05	10.65**	.01	1.89	.01
	n	115	117	127	139	142	141	(5, 1617)		(1, 1617)		(5, 1617)	
	女性	2.69 (1.24)	2.74 (1.22)	3.35 (1.12)	3.33 (1.17)	3.52 (1.13)	3.56 (1.06)	10代=20代<40代=50代、10代=20代<30代<60代					
	n	136	135	144	149	144	140	男性<女性					
運命	男性	2.95 (1.20)	2.91 (1.23)	3.21 (1.25)	3.04 (1.14)	3.21 (1.00)	3.44 (1.05)	7.73***	.02	21.58***	.01	0.63	.00
	n	115	117	127	139	142	141	(5, 1617)		(1, 1617)		(5, 1617)	
	女性	3.10 (1.21)	3.21 (1.25)	3.53 (1.07)	3.36 (1.09)	3.58 (1.05)	3.54 (1.04)	10代=20代<30代=50代=60代、40代<60代					
	n	136	135	144	149	144	140	男性<女性					

注：n、F値(df)、 η^2 以外の数値は、平均値(SD)である。得点範囲は1.00から5.00であった。* $p<0.05$ 、** $p<0.01$ 、*** $p<0.001$ を示している。2群間に有意差がみられたことは不等号(<)で表記した。Bonferroni法による下位検定の結果、大きい得点を示した年代は太線で、小さい得点を示した年代は破線で囲んだ。10代(15歳以上)で、子どもがいる回答者がいなかった。「感謝を感じる対象」は、すべて「〇〇への感謝の気持ち」という項目であった。

主な分析結果は、次の5点にまとめることができる。第1に、年上のきょうだい、年下のきょうだい、学校の先生への感謝得点は60代で最も大きくなり、年下のきょうだいへの感謝は20代と30代でも、学校の先生への感謝は10代でも最大の得点を示していた。第2に、祖父母への感謝得点は男性が10代、女性が30代で、友だちへの感謝得点は10代で、自分の子どもへの感謝得点は20代から30代で得点が最も大きく、恋人への感謝得点は、女性でのみ10代よりも20代が大きかった。第3に、祖先への感謝得点は10代から20代よりも、30代から60代で得点が大きく、自分が置かれている環境から運命までの9種類の抽象的な対象への感謝得点は10代あるいは20代で最も小さく、60代で最も大きかった。日常生活のささいなこと、自分が生まれてきたことへの感謝は、30代でも最大の得点を示していた。第4に、祖先と自分が過去に苦労したこと以外の8種類の抽象的な対象への感謝、および年下のきょうだい、友だち、自分の子どもへの感謝は、男性よりも女性の得点が大きかった。第5に、父親、母親、職場（あるいはアルバイト先）の人への感謝得点には、有意差がみられなかった。

考 察

本研究の分析結果に基づいて、感謝を感じる対象の発達的变化をFigure 1にまとめた。感謝を感じる対象の発達的变化は、対人関係における感謝（変化なし）、対人関係における感謝（変化あり）、抽象的な対象への感謝という大きく3つの特徴にまとめることができる。第1の対人関係における感謝（変化なし）は、父親、母親、職場（あるいはアルバイト先）の人が含まれ、年代による得点差はみられず、15歳以上から60代にかけて感謝の気持ちを安定して感じていた。しかし、職場（あるいはアルバイト先）の人への感謝は、発達の変化よりも職場環境などに影響されやすいことも考えられる。また、青年期から成人期にかけて母親に対する感謝を感じる心理状態が変化していくことも示されている（池田，2006；2014）ように、感謝の気持ちを安定して感じている場合でも、その意味あいは発達の異なる可能性もある。第2の対人関係における感謝（変化あり）は、友だち、恋人（あるいは配偶者）、祖父母、学校の先生、自分の子ども、年下のきょうだい、年上のきょうだいが含まれ、感謝の気持ちを最も感じている時期ならびに感じる程度が最小の時期が対象によって異なっていた。Eriksonがライフサイクルにおける「重要な意味を持つ他者」（鈴木・西平，2014）について論じているように、生活空間やライフスタイルの変化に伴い、対人関係において感謝を感じやすい相手も変化していくことが考えられる。たとえば、10代では友だちや学校の先生が、自分にとって重要な意味を持ちやすい相手であることが想定される。第3の抽象的な対象への感謝は、自然の恵み、自分の健康状態、いのちのつながりといった10種類の対象が含まれ、概ね10代から20代よりも50代、さらに60代に感謝を感じる程度が大きくなっていた。これは、青年期やそれ以降には個人を超えてより包括的で抽象的な対象を含んで感謝を感じるという指摘（McAdams & Bauer, 2004）や、老年期には感謝の対象がより精神的なものに移行するという指摘（有光，2010）とも共通した結果であった。祖先への感謝は30歳以上から継続して高い得点を示しているが、祖先は抽象的であると同時に具体的な家族関係も想起しやすい対象であることから、他の抽象的な対象に比べて意識しやすく、感謝を早くから感じる可能性があると考えられた。

さらに、30代において、自分の子ども、年下のきょうだい、年上のきょうだい、祖先、日常生活のささいなこと、自分が生まれてきたことへの感謝得点が、男女共に大きくなっていた。このことから、30代頃に感謝の気持ちが高まる時期がみられると考えられる。Eriksonのライフサイクル論を参考にすると、30代には自らのアイデンティティの問題に集中していた関心や心的エネルギーが他者や次世代へ移行していくと考えられる（大野，2014）。岡本（2002）は、中年期に体験される中心的なテーマとして“自己

父親	○	○	○	○	○	○	対人関係に おける感謝 (変化なし)
母親	○	○	○	○	○	○	
職場（アルバイト先）の人	○	○	○	○	○	○	
友だち	◎	○	○	△	△	△	対人関係に おける感謝 (変化あり)
恋人（配偶者）	○／△	○／◎	○	○	○	○	
祖父母	◎／○	△／○	○／◎	○	△	○	
学校の先生	◎	○	○		○／	◎	
自分の子ども	—	◎	◎	○	△	△	
年下のきょうだい	／△	◎	◎	○	○	◎	
年上のきょうだい	○	○	○	○	△	◎	
祖先		／△	◎	◎	◎	◎	抽象的な 対象への 感謝
日常生活のささいなこと	△	○	◎	○	○	◎	
自分が生まれてきたこと	○	△	◎	○	○	◎	
自然の恵み	△	△	○	○	○	◎	
いのちのつながり	△	△	○	○	○	◎	
自分が過去に苦労したこと	△／	／△	○	／△	○	◎	
自分が置かれている環境	○	／△	○	○	○	◎	
自分の健康状態	△	／○	○	○	○	◎	
運命			／○	／○	○	◎	
神あるいは仏	×	×	／○	／○	○	◎	
感謝を感じる対象	10代 (15歳以上)	20代	30代	40代	50代	60代	

Figure 1 感謝を感じる対象の発達的变化

注：「感謝を感じる対象」は、すべて「○○への感謝の気持ち」という項目であった。その順番は、分析結果を参考に並び替えている。男女に違いがみられた場合には、「／」を挿入し、左側に男性、右側に女性の得点を示した。10代（15歳以上）で、子どもがいる回答者はいなかった。各記号は、以下の基準にしたがって示した。

◎：得点可能範囲の中間値である3.00よりも有意に大きく、Bonferroni法による下位検定の結果、大きい得点を示した年代（網掛け）

○：得点可能範囲の中間値である3.00よりも有意に得点が大きかった年代

△：得点可能範囲の中間値である3.00よりも有意に得点は大きかったが、Bonferroni法による下位検定の結果、小さい得点を示した年代

×：得点可能範囲の中間値である3.00よりも有意に得点が小さかった年代

の有限性の自覚”を挙げている（p.155）。30代頃は、関心や心的エネルギーが自分から他者へと移行し、自分自身の限界も実感する中で他者の存在が意識化されることで、感謝の気持ちを抱きやすい時期といえるのかもしれない。

また、感謝への気持ちを感じる程度に男女差がみられた対象もあった。具体的には、年下のきょうだい、友だち、自分の子ども、自分が置かれている環境、自分の健康状態、日常生活のささいなこと、自然の恵み、自分が生まれてきたこと、いのちのつながり、神あるいは仏、運命という11種類の対象への感謝は、男性よりも女性の得点が大きかった。Froh, Yurkewicz, & Kashdan（2009）によれば、女性は男性に比べて、感謝を感じることや表明することに葛藤や抵抗が少ないという。感謝得点の男女差ならびに年代差が有意であった場合でも、効果量（ η^2 ）は.01から.05と小さく考察には留意が必要であるが、本研究でも先行研究（Froh et al., 2009）で指摘されるような男女差が得られたといえる。

以上より、感謝は生涯発達をとおして、具体的な対人関係においてだけでなく、抽象的な対象へも広がって感じられるようになって考えられた。このことは、“恩恵享受的自己感（blessed self-feeling）”（中間, 2013）や内観にみられる自己同一性のあり方（村瀬, 1996）を踏まえると、自分という存在が具体的な他者だけではなく、抽象的な対象とのつながりの中でも理解され、これまでに与えられてきた恩恵が実感

されるようになるとも指摘できる。

今後の研究の課題と展望を次の3点にまとめる。第一に、感謝の発達的变化を規定する心理的要因の解明である。本研究では、感謝を感じる対象の発達的变化について年齢的变化を指標に検討したが、年齢的变化はあくまでみかけの指標であるといえる。なぜ感謝を感じる対象が変化していくのかについて、感謝の発達的变化を規定する心理的要因という観点から明らかにすることは重要である。第二に、感謝を感じる心理状態の発達的变化の検討である。先述したように、感謝の気持ちを安定して感じている場合でも、その意味あいには発達的に異なる可能性もある。そこでは、全般的な感謝感情に加え、感謝を感じる個別の対象に着目した検討も必要であろう。第三に、感謝の発達的变化を理解する上で、社会文化的背景を考慮することである。本研究では、神あるいは仏への感謝得点が10代と20代では得点可能範囲の中間値である3.00を下回っていたが、この結果が日本人の発達の特徴である可能性もある。社会文化的背景の相違が、感謝の発達的变化に与える影響について検討していくことが課題である。

付 記

本研究は、JSPS科学研究費22730519の助成を受けたものです。調査にご協力くださった皆さまに厚くお礼申し上げます。

註

注1：与えることの喜びと人生に対する満足度に関する項目への回答も求めたが、本研究では取りあげない。詳細は、池田(2013)を参照。

注2：項目検討にあたっては、各項目が「感謝を感じる対象」を尋ねる項目として内容的に適切かどうかについて検討を依頼し、必要な場合には文章の修正案も求めた。その結果、事前に設定した「飼っているペットへの感謝の気持ち」「自分自身への感謝の気持ち」は、一般的に誰もが感謝を感じる対象として想定することは難しいと判断された。さらに、「きょうだいへの感謝の気持ち」は年上と年下それぞれのきょうだいを設定し、「自分が置かれている環境への感謝の気持ち」を加えた。回答者が理解しやすいような表現の修正も含めて、合計7項目を修正した。

引用文献

- 有光興記. ポジティブな自己意識的感情の発達. 心理学評論. 2010, 53, p.124-139.
- Chipperfield, J.G.; Perry, R.P.; Weiner, B.; Newall, N.E. Reported causal antecedents of discrete emotions in late life. *International Journal of Aging and Human Development*. 2009, 68, p.215-241.
- Emmons, R.A. "The Psychology of Gratitude. An Introduction." *The Psychology of Gratitude*. Emmons, R.A.; McCullough, M.E., eds. Oxford University Press, 2004, p.3-16.
- Erikson, E.H. *Identity and the Life Cycle*. International Universities Press, 1959.
- (エリクソン, E.H. 西平直, 中島由恵訳. アイデンティティとライフサイクル. 誠信書房, 2011, 251p.)
- Froh, J.J.; Bono, G. "The Gratitude of Youth." *Positive psychology: Exploring the best in people*. Vol.2 Capitalizing on emotional experiences. Lopez, S.J. ed. Praeger, 2008, p.55-78.
- Froh, J.J.; Yurkewicz, C.; Kashdan, T.B. Gratitude and subjective well-being in early adolescence: Examining gender differences. *Journal of Adolescence*. 2009, 32, p.633-650.
- 本多明生. 進化心理学とポジティブ感情—感謝の適応的意味. 現代のエスプリ. 2010, 512, p.37-47.
- 池田幸恭. 青年期における母親に対する感謝の心理状態の分析. 教育心理学研究. 2006, 54, p.487-497.
- 池田幸恭. 感謝の発達的变化と与えることの喜びを感じる生き方および人生満足度との関係. 日本発達心理学会第24回大会発表論文集. 2013, p.84.
- 池田幸恭. 成人期を中心とした親に対する感謝の検討. 和洋女子大学紀要. 2014, 54, p.75-85.
- 岩崎眞和, 五十嵐透子. 青年期用感謝尺度の作成. 心理臨床学研究. 2014, 32, p.107-118.
- 北折充隆, 太田伸幸. Web調査と質問紙調査の回答比較に関する研究. 金城学院大学論集, 人文科学編. 2009, 6, p.1-8.

- 蔵永瞳, 樋口匡貴. 感謝の構造—一生起状況と感情体験の多様性を考慮して—. 感情心理学研究. 2011, 18, p.111-119.
- 蔵永瞳, 樋口匡貴. 感謝生起状況における状況評価と感情体験が対人行動に及ぼす影響. 心理学研究. 2013, 84, p.376-385.
- McAdams, D.P.; Bauer, J.J. "Gratitude in Modern Life : Its Manifestations and Development." The Psychology of Gratitude. Emmons, R.A.; McCullough, M.E., eds. Oxford University Press, 2004, p.81-99.
- 三好昭子, 大野久, 内島香絵, 若原まどか, 大野千里. Ochse & PlugのErikson and Social-Desirability Scale の日本語短縮版 (S-ESDS) 作成の試み. 立教大学心理学研究. 2003, 45, p.65-76.
- 村瀬孝雄. 内観 理論と文化関連性. 誠信書房, 1996, 341p., (自己の臨床心理学, 3)
- 中間玲子. 自尊感情と心理的健康との関連再考: 「恩恵享受的自己感」の概念提起. 教育心理学研究. 2013, 61, p.374-386.
- 岡本祐子. "アイデンティティの生涯発達と心理臨床." アイデンティティ生涯発達論の射程. 岡本祐子編著. ミネルヴァ書房, 2002, p.151-181.
- 大野久. "新たな人間社会の構築に向けた研究." アイデンティティ研究ハンドブック. 鎌幹八郎監. 宮下一博, 谷冬彦, 大倉得史編. ナカニシヤ出版, 2014, p.220-230.
- 佐竹真次. 人は何について感謝しているか—大学生とその親がいただく感謝の内容と相手—. 山形保健医療研究. 2004, 7, p.1-8.
- 鈴木忠, 西平直. 生涯発達とライフサイクル. 東京大学出版会, 2014, 304p.
- Tsang, J.A. Gratitude and prosocial behavior: An experimental test of gratitude. Cognition and Emotion. 2006, 20, p.138-148.

池田 幸恭（和洋女子大学 人文社会科学系 准教授）

（2014年11月11日受付）